

令和4年度箕面国有林におけるニホンジカの生息状況外モニタリング調査報告書 —概要版—

令和5年3月
(株)野生動物保護管理事務所

GPS テレメトリー調査

シカの行動特性を把握することを目的に、シカ2頭にGPS首輪を装着し、行動状況等について分析を試みた。

結果

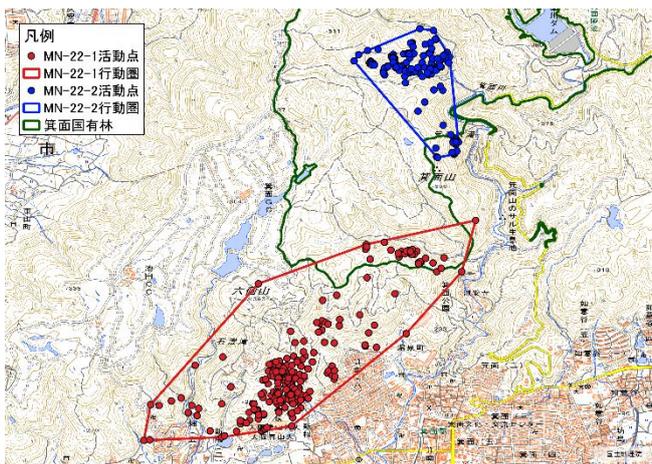
- ・シカの亜成獣オス1頭、成獣オス1頭にGPS首輪を装着した。
- ・広い範囲(1.56km²)を動く個体と狭い範囲(0.34 km²)を動く個体がいた。
- ・落葉広葉樹林の利用が多く、その他自身の生息場所に応じた群落を利用していた。



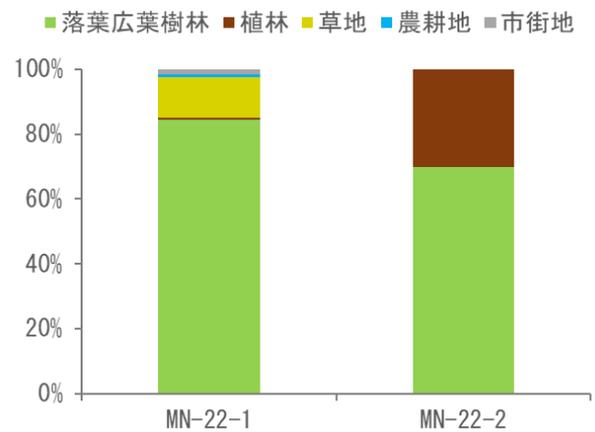
捕獲個体① MN-22-1 (亜成獣オス)



捕獲個体② MN-22-2 (成獣オス)



捕獲個体の活動点と最外郭行動圏



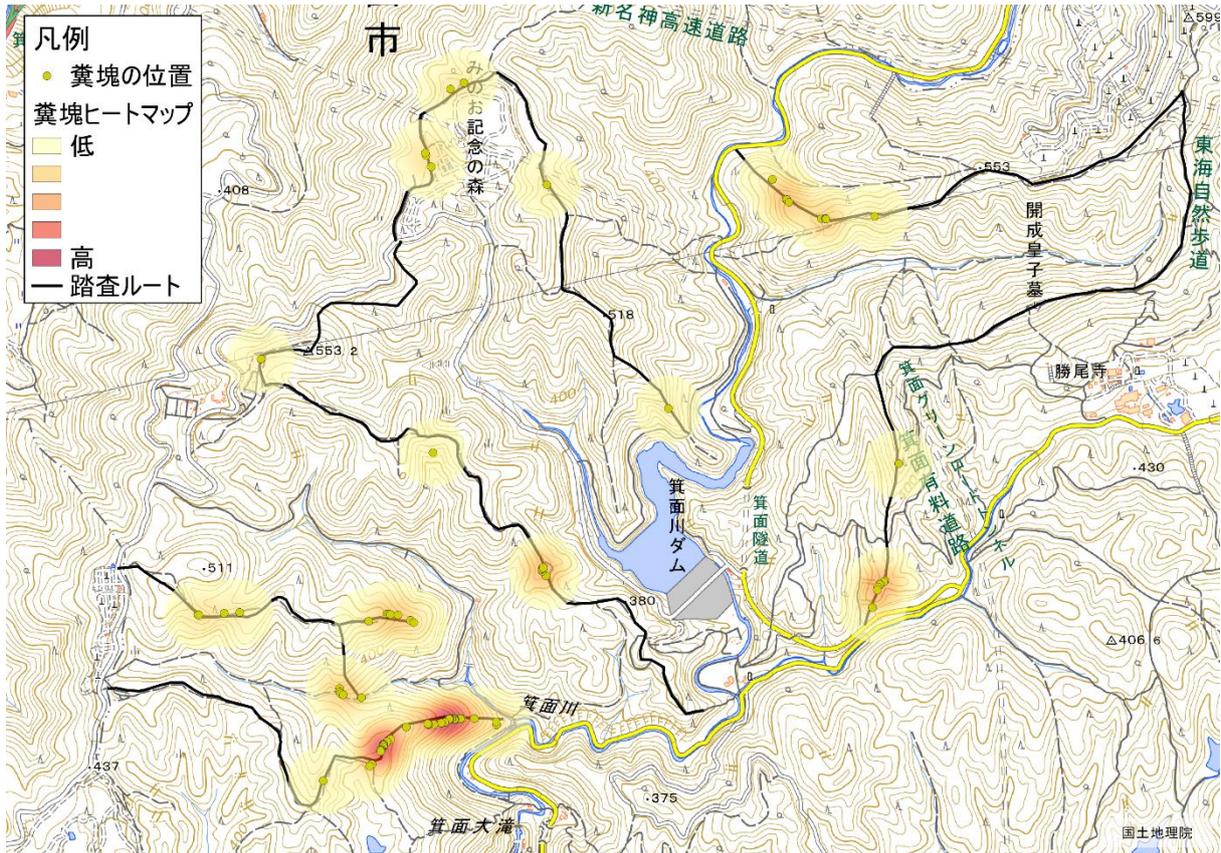
捕獲個体の利用群落

糞塊密度調査

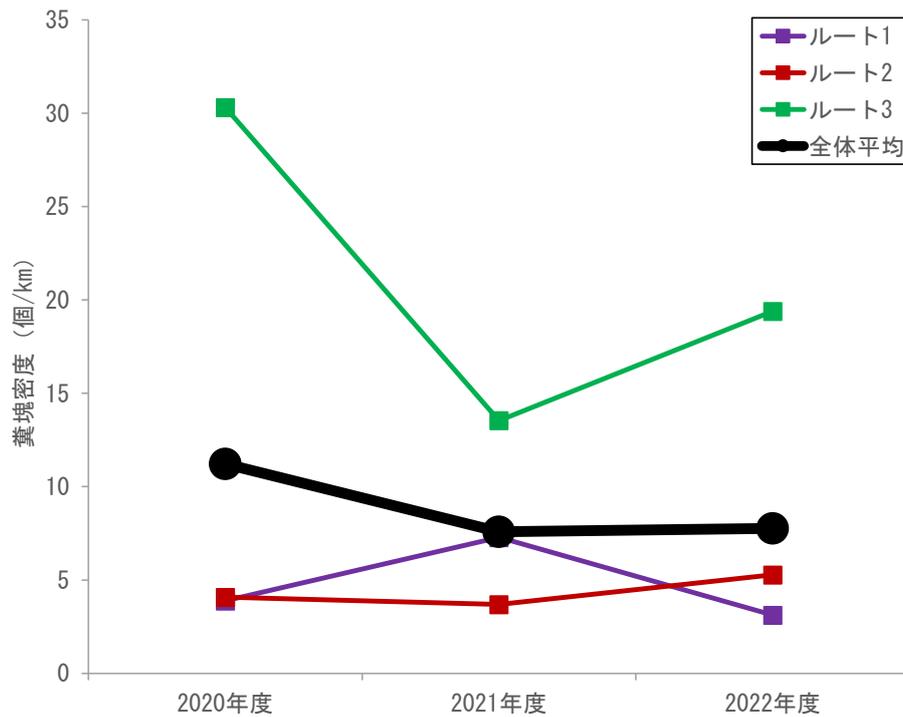
令和2年度からシカの生息動向を把握することを目的に、糞塊密度調査を開始した。糞塊密度調査は、国有林の主要な尾根を踏査し、10粒以上の糞塊の位置とルート別の個数を記録した。

結果

- ・ 箕面国有林全体ではシカの糞塊が少なかったが、一部の地域に糞塊が集中していた。
- ・ 国有林全体では、糞塊密度が昨年度の7.59個/kmから7.77個/kmにやや上昇していた。



確認された10粒以上糞塊の位置



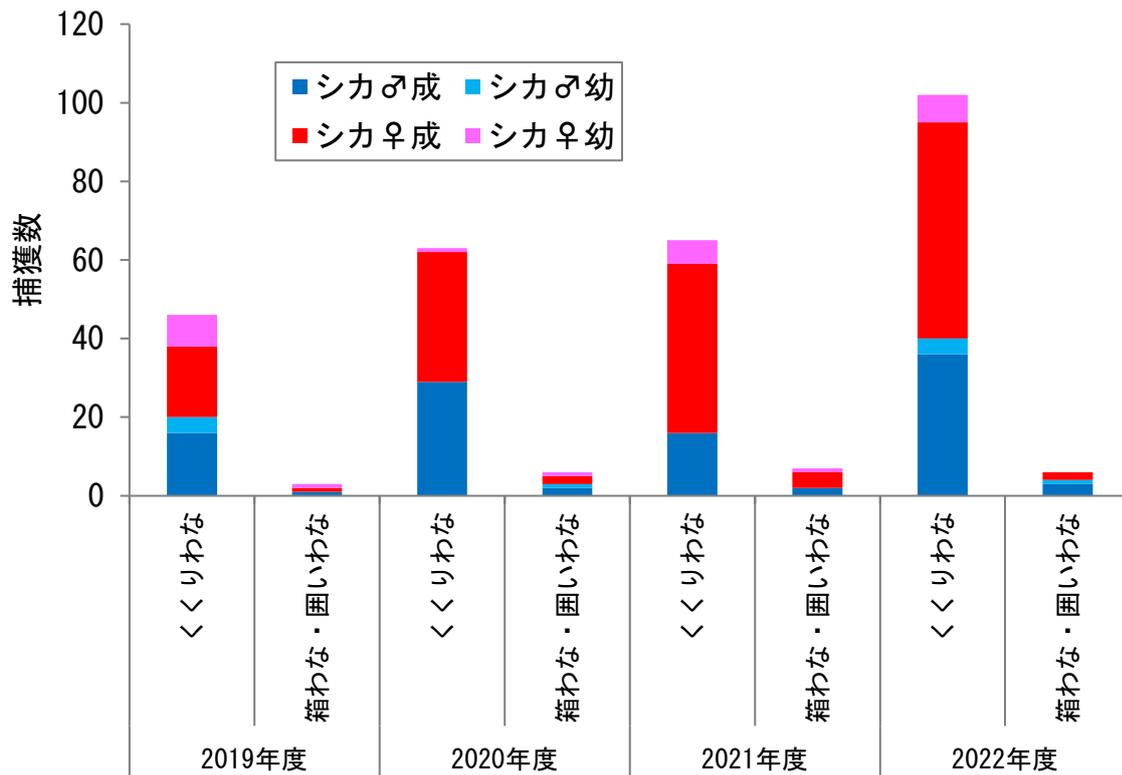
糞塊密度の経年変化

捕獲情報分析

捕獲個体数や捕獲効率についてモニタリングを継続することで、個体群動態把握のための指標の1つとなる。

結果

- ・ 2022年度は、過去の年度と比較して多くのシカを捕獲できた。
- ・ 箱わな及び囲いわなより、くくりわなの方が捕獲数が多かった。
- ・ 捕獲効率（CPUE：捕獲努力量あたりの捕獲数）は、箱わな及び囲いわなが平均 0.49（林班別：0～0.88）、くくりわなが平均 1.71（林班別：0.21～4.44）であった。



わな種ごと性別ごとの捕獲頭数

林班ごとの捕獲効率 (2022 年度)

・ 箱わな及び囲いわな

林班	設置台日数	捕獲数	捕獲効率
269 林班	28	0	0
270 林班	396	2	0.51
274 林班	226	2	0.88
275 林班	237	0	0
276 林班	120	0	0
277 林班	226	2	0.88

・ くりわな

林班	設置台日数	捕獲数	捕獲効率
267 林班	493	8	1.62
268 林班	471	1	0.21
269 林班	753	6	0.80
270 林班	633	3	0.47
272 林班	228	4	1.75
273 林班	189	6	3.17
274 林班	266	6	2.26
275 林班	1419	12	0.85
276 林班	762	23	2.89
277 林班	743	33	4.44